

---

◎町長所信表明

○議長（稲葉昭宏君） 日程第4、町長の所信表明を行います。

町長から報告の申出がありますので、これを許します。

（町長 齋藤文彦君 登壇）

○町長（齋藤文彦君） 本日、平成25年第4回松崎町議会定例会の開会にあたり、所信表明の機会をいただき、誠にありがとうございます。

先の町長選挙におきまして、町民の皆さまから多大なるご支援をいただき、引き続き町政運営の重責を担わせていただくこととなりました。選挙期間中、私は町民の皆さまと向き合い、批判も含め多数の意見やご要望をいただきました。

住民の皆様の声を真摯に受け止めるとともに自ら汗をかき、また、議員の皆さまと未来を議論しながら、情熱をもって、いかなる困難な課題にも果敢に挑戦してまいり所存であります。

私の1期目の4年間は「平成の花とロマンのふるさとづくり」をテーマに住民一人ひとりが主役となった、松崎らしい田舎づくり、人づくりを目指し、グリーンツーリズムの推進、歴史的景観の整備、鰻絵のまちづくりの推進、7大イベントの開催など、先人が手掛けてきた事業を踏襲しつつも、そこに新しいアイデアを組み込みながら推進することによって、町の活性化を図ってまいりました。

このような取り組みにより、約1500人が参加した「伊豆トレイルジャーニー」をはじめ、「松崎やろうじゃ協議会」の設立や「日本で最も美しい村」連合への加盟を成し遂げました。また、桑の葉やハーブの試験栽培、川のりの養殖実験や地熱発電の研究など様々な分野において、町民有志の方たちの活動が活発になってきたように思います。

こうした活動は、今後の町の活性化を担う上で、大変重要なものになってくると考えます。これらの事業に直接参加いただいた皆さま、そしてご理解をいただきました町民の皆さまに改めて感謝を申し上げます。

本日は、町長2期目の就任にあたり、初めての定例会となります。貴重な時間をいただき、私の「まちづくり」への考えを述べさせていただきます。

私は、今年の3月に策定しました「松崎町第5次総合計画」に基づき“一人ひとりが主役となり 活力とやすらぎと感動のあるまち”を将来像に掲げ「地域が一体となった産業が盛んなまちづくり」、「健やか・安心に暮らせる福祉のまちづくり」、「防災・防犯対策が充実した安全なまちづくり」、「自然と調和し快適な環境が整ったまちづくり」、「未来を担う人材を育むまちづく

り」、「多様な主体により協働で進めるまちづくり」の六つの基本構想を今後4年間で取り組む政策の真ん中に据え、全力で取り組んでまいります。

この基本構想を実現するためには、私が選挙で住民の皆さまに公約として掲げたとおり、将来を見据え、次のような点を重視して諸施策を進めてまいります。

先ず、1点目として「地域経済の活性化」について申し上げます。

我が国の社会情勢は、東日本大震災の復旧や長引く景気低迷、人口の減少、少子高齢化の進行など、先行きが見通せない状況に直面しています。

最近では、アベノミクス効果などによる上向きの経済成長をしていると言った報道がされていますけれども、現実には、地域経済が、それを十分に実感出来るまでに至っていないのは周知のとおりでございます。

松崎町の財政状況を見ましても、ここ数年間町税は減少傾向にあります。また、観光交流客数の推移を見ましても、減少傾向にあり、観光業を基幹産業とする松崎町にとって深刻な状況が続いております。

こうした状況を打破するためには、日本全国の観光地と差別化を図り、町内の自然景観を活用した滞在型グリーンツーリズム「全町まるごとふるさと自然体験学校」の更なる推進をし、町民が先生となり、体験を通して対価を得ることが、私の考える道筋であります。

近年、旅行形態が大きく変わり、団体での物見遊山的な観光でなく、個人が自分の趣味・趣向を満喫できる地域に的を絞り、訪れております。このような人たちを誘致するために、松崎町の花や山などの自然景観や、この地域に根付いている文化・伝統を活かした体験メニューの開発を行うとともに、農林水産物の活用と商工業の連携による6次産業化を推進することによって、松崎町でしか味わえない、松崎町でしか買うことの出来ない商品を開発していきたいと考えております。

このような取り組みにより地域経済を活性化させ、町民の所得向上と次世代を担う若者に就業する場を提供し、生産年齢層の流出に歯止めをかけることが出来るのではないかと思います。

本年10月に加盟した「日本で最も美しい村」連合に参加している町村や地域、企業の皆さまにも知恵をお借りしながら、小さくても輝けるまちづくりを目指してまいります。

次に、2点目として「少子高齢化対策、子育て支援」についてであります。

我が国の人口は、平成17年以降減少に転じ、地方における急速な過疎化の進行は大きな社会問題となっています。

当町におきましても、年間出生数は40人を下回り、高齢化率も39%を超えるなど、少子高齢

化の進行は深刻さを増しております。こうした問題の改善に向け、若い世代が未来を担う子供たちを生みやすい環境、また、地域の宝である子供たちの生きる力や、思いやりのある心を育てるような環境づくりに取り組むとともに、地域のコミュニティを活性化し、子どもから高齢者まで、全ての人が安心して生活できるようなまちづくりを目指してまいります。

次に3点目として、「防災対策」についてであります。

近年、突発的、局地的な風水害や地震などの災害が多く発生しております。生命や身体、財産を守る安全・安心な地域づくりを進めることは何よりも優先すべきものと考えております。

特に、東日本大震災を契機として町民の防災意識も高まっており、巨大地震の被害を最小限に抑えるための防災対策を強化する必要があります。

現在、県の第4次地震被害想定を踏まえ、町の地域防災計画の見直しを進めているところですが、懸案となっております「那賀川河口の水門建設」につきましては、防潮堤の粘り強い構造への改良とあわせて、引き続き県に要望してまいります。

河口周辺の避難困難地区には、津波避難タワーの建設や避難路等の整備を進めるとともに、橋梁の耐震化にも取り組んでおりますが、今後とも国県、その他関係機関との連携を密にして、防災対策を推進してまいります。

以上、2期目に向けての「まちづくり」の方針について、私の所信を述べさせていただきましたが、これらの政策を実施していくためには、職員と町民の皆さんとの信頼関係が不可欠となります。

この信頼関係を構築するため、職員のコンプライアンスを高め、「役場は町民の役に立つ人が働いている場所」と言われるように、全身全霊を傾注し、邁進していく所存であります。

議員各位並びに町民の皆様方の、更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげまして、私の所信表明といたします。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で町長の所信表明を終わります。

---